


地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
141	さまざまな地形(1)	<input checked="" type="checkbox"/> 54	アルプス山脈は、ユーラシアプレートとアフリカプレートの衝突によってできた。同じしくみでできた大山脈には、ユーラシアプレートとインド・オーストラリアプレートの衝突によってできたヒマラヤ山脈がある。
142	さまざまな地形(1)	<input checked="" type="checkbox"/> 55	この地形図で、扇状地の土地利用は、地図記号から果樹園が多いことが読み取れる。また、山間部に大雨が降ると、土石流が起こる危険性が高い。
142	さまざまな地形(1)	<input checked="" type="checkbox"/> 56	東沼や西沼が湾曲しているのは、ここが旧河道で蛇行していた跡だからである。田の中に家屋が点在しているところは、後背湿地なので洪水に注意するべきである。
144	さまざまな地形(2)・集落		気温の上昇に伴って山岳氷河の融解が進むと、末端の氷河湖の水位が上がり、これをせき止めているモレーンが決壊して、下流の集落が土石流や洪水に襲われる危険性がある。
145	世界の気候(1)	<input checked="" type="checkbox"/> 57	各地の気候は、気温と降水量の月別の値から、季節による違いが読み取れる。また、南半球は季節が逆転していることもわかる。
149	世界の環境問題		②③図から二酸化炭素排出量の地域別変化は、中国などの経済成長が著しい新興国で増えていることが読み取れる。気候変動に対して具体的な対策をとらないと、③図のように世界の平均気温は上昇し、その影響で④図のように北極の氷が融けたり、⑤図のように世界の気候区分が暖かい区分に変わっていったりすることが考えられる。
150	世界の環境問題		生物多様性の危機は、農業開発や都市開発で自然環境が失われることで起こる。また、外来種の移入や動植物の売買でも起こる。海や陸の豊かさを守るには、自然開発を抑制し、動植物の保全を中心に考えて行動する必要がある。
152	世界の農業・林業・水産業	<input checked="" type="checkbox"/> 58	①図から、穀物の輸出量が多い国・地域は、アメリカ合衆国など北アメリカ、ブラジル・アルゼンチンなど南アメリカ、ロシア・ウクライナ・フランスなどヨーロッパに多くみられ、輸入量が多い国・地域は、日本・中国・韓国などアジア、エジプト・アルジェリアなどアフリカにみられる。また、②・③図から、米を除く穀物は、北アメリカや南アメリカ、ヨーロッパからアジアやアフリカに移動している傾向が読み取れる。
153	世界の食料問題、健康、教育	<input checked="" type="checkbox"/> 59	栄養不足の人が多い地域は、サハラ以南のアフリカや南アジアなどである。サハラ以南のアフリカでは、栄養不足人口の割合が30%を超える国があり、1人1日あたりのカロリー供給量が2000kcal未満の国もある。南アジアの国は、栄養不足人口の割合はアフリカよりも低いが、インドをはじめとして人口が多いので、栄養不足人口は多いことが読み取れる。一方、肥満率が高い国は、アメリカ合衆国や西アジア、北アフリカの一部の国で、先進国や産油国で高い傾向がある。
154	世界の食料問題、健康、教育		HDIは、健康・教育・所得から求められる。HDIが低い国は、③・④・⑥図から栄養不足で食料が手に入りにくいことや、⑭図から医療も行き届かず健康面の課題も大きいことが読み取れる。また、⑮図から識字率も低いという教育の課題や、さらに⑯図からは所得も低いという課題もあることがわかる。SDGsでは、目標1：貧困、目標2：飢餓、目標3：健康など各目標があるが、これらは相互に関連しあっているので、解決の糸口を見つけて、連鎖的に課題解決へ向かう努力が求められている。
156	世界の資源・エネルギー		①図で1人あたりのエネルギー消費量が2000kgより多い国は、先進国と発展途上国のうちの新興国や産油国である。持続可能な社会を築くためには、p.174④図の発電量の推移にあるように電力消費を抑え、⑤図のように太陽光・風力・バイオマス・地熱など再生可能エネルギー利用への転換が必要である。

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
156	世界の資源・エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 60	⑦図から、鉱産資源の分布には地域的な偏在がみられ、特にレアメタルは、アフリカ南部に集中している傾向が読み取れる。⑧図から、日本のレアメタル輸入先は、南アフリカ共和国や中国などであることが読み取れる。
158	世界の工業・貿易・地域機構	<input checked="" type="checkbox"/> 61	USMCAは、加盟国は3か国だがGDPが世界1位のアメリカ合衆国が含まれるためGDPが高い。EUは、加盟国数が多く域内貿易の割合が高いために全体の貿易額が多くなる。(EUの域内貿易については、p.70【Global Eye】ヨーロッパの探究の解答を参照。)
159	世界の人口・都市・居住	<input checked="" type="checkbox"/> 62	世界人口が急増し始めたのは、20世紀の後半からで、特にアジアでの人口急増が著しかった。今後は、アフリカの人口が急増すると推定されることが読み取れる。
160	世界の人口・都市・居住	<input checked="" type="checkbox"/> 63	⑥図からアジアなどの1人あたりのGNIが低い国からアメリカ合衆国やヨーロッパ、アラビア半島などの1人あたりのGNIが高い国へ人々が移動していることが読み取れる。移動の目的は、⑦図の海外送金の受取額から、仕事を求めての移動であることが推測できる。
160	世界の人口・都市・居住		⑧図から、都市人口率は全体的に低いアフリカで急上昇している国がみられる。アフリカの国々は、⑨図からほかの地域の発展途上国よりもスラム人口率が高い傾向があり、この理由は、⑩図のように人口増加率が高いために、都市部に人々が大量に流れ込んでいるためと考えられる。⑪図から、都市人口率が高い国は、1人あたり国民総所得(GNI)が高い傾向にあるが、GNIが高くない国のなかにも都市人口率が高い国がみられる。今後は、都市人口率が上がっても、スラムでの生活など所得水準が上がらず、「住み続けられるまちづくりを」という目標11の達成が難しい国も多いと考えられる。
161	世界の言語・宗教、紛争、生活文化	<input checked="" type="checkbox"/> 64	インド・ヨーロッパ語族は、ヨーロッパからインドにかけて分布しているが、ほかにも北アメリカや南アメリカ、南アフリカ、オーストラリアやニュージーランドなどにもみられる。これらは、②図のキリスト教の伝播でもわかるように、ヨーロッパの人々がこれらの地域に進出したことによる。
161	世界の言語・宗教、紛争、生活文化		SDGsの目標16は「平和と公正をすべての人に」である。難民の発生総数が多い国・地域では、民族問題などの紛争が起こっていることが多く、目標16の達成には、それぞれの問題の和平的解決が求められる。難民の移動は、シリアのように遠く離れたヨーロッパに向かう例もあるが、アフリカをはじめ多くは隣国に避難している。
162	世界の言語・宗教、紛争、生活文化	<input checked="" type="checkbox"/> 65	②③図から宗教別人口では、仏教よりもヒンドゥー教の方が多いが、ヒンドゥー教は民族宗教であり、②図から仏教の方が地域的広がりが大きいので、キリスト教とイスラームと仏教が世界宗教とされる。
163	日本の地形・気候	<input checked="" type="checkbox"/> 66	フォッサマグナは、飛騨山脈の東側から諏訪湖を通り、赤石山脈の東側を通過して駿河湾に至る。中央構造線は、諏訪湖から赤石山脈の西側を通り渥美半島に抜け、紀伊半島中央部を東西に横断して紀の川を通り、吉野川から四国を東西に横断して佐田岬半島を抜けた後、九州に入り天草諸島方面に伸びる。
164	日本の地形・気候	<input checked="" type="checkbox"/> 67	⑤図から気温は、高緯度で低く低緯度で高いほかに、内陸部では寒暖の差が大きいことがわかる。また、p.163②図から、気温は標高が高くなると低下することもわかる。⑥図から降水量は、冬は日本海側で多く、夏は特に近畿～九州地方の太平洋側で多いこと、また瀬戸内や中央高地では年間を通して少ないことがわかる。以上を組み合わせると④図の気候区分となる。
165	日本の自然災害・防災(1)	<input checked="" type="checkbox"/> 68	①②図で太平洋プレート側から海溝、地震の震源地、火山前線と3列に並んでいることが読み取れる。これは①⑥図から、海洋プレートが大陸プレートに沈み込む境界に海溝ができ、その先で蓄積されたひずみが一気に放たれて大地震が発生、さらに沈み込んだ先でマグマが生じ、これが上昇して火山ができるためとわかる。

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
165	日本の自然災害・防災(1)	<input checked="" type="checkbox"/> 69	②図から、活断層は何本かにわかれているが、全体としては淡路島から神戸市にかけて一つの束になって連なっていることが読み取れる。震度7を記録したところも、活断層上に細長く連なっている。液状化したところは、活断層に沿った埋立地である。(活断層は、日本列島の各地に存在し、このずれによって発生する直下型地震は、震源が浅く、大きな揺れは活断層に沿って伸びる傾向がある。)
167	日本の自然災害・防災(2)	<input checked="" type="checkbox"/> 70	日本の気象災害は、①図の気象災害が発生したおもな地域の分布や①a～①e図にあるように、大雨や台風による水害が多く、西日本に多い傾向がある。その理由は、③図での線状降水帯の発生による集中豪雨や、④図での台風がもたらす大雨によるものである。一方、豪雪地帯は、北海道・東北の日本海側から北陸にかけて分布している。(各自治体は、その地域で頻繁に発生する気象災害に対応するための対策を、国とともに進めている。)
167	日本の自然災害・防災(2)		⑥図のように、世界中で地震災害、火山噴火、熱帯低気圧による自然災害が発生している。ほかの図にあるように日本では、これ以外にも雪害などさまざまな自然災害が発生している。これらによる被害を減らす取り組みとしては、⑤図にある地震に対する建物の免震・耐震化、津波避難タワーの設置、火山噴火に対する避難シェルターの設置、また、熱帯低気圧などによる大雨に対する砂防堰堤や地下貯水池、地下調整池の設置などが考えられる。
169	地図で考える防災	 視点	「視点」の解答(解説)は「探究」内に示している。
169	地図で考える防災	<input checked="" type="checkbox"/> 71	Aの地域は、③図から、明治30年頃の土地利用は田が広がっていたことが読み取れる。また、②図から、地形分類は後背湿地などの低地が広がっていたことが読み取れる。このことから、Aの地域は、川沿いの低地に広がる水田地帯であったと考えられる。
169	地図で考える防災	<input checked="" type="checkbox"/> 72	②図から旧堤防で囲まれたBの地域には自然堤防があり、③図からこの自然堤防上に集落が立地していることが読み取れる。また、③図には旧堤防と同じ輪郭の線が読み取れ、堤防はこの集落を洪水から守るために明治時代以前につくられていたことが推測できる。(この集落は、川辺宿という西国街道の宿場町として栄えた集落で、洪水の侵入を防ぐために「神楽土手」という輪中堤のような堤防が明治時代より前から築かれていた。)
170	地図で考える防災	<input checked="" type="checkbox"/> 73	Cの地点について、①図の令和の地形図では小田川は高梁川に合流しているが、③図の明治の地形図では高梁川に合流せず南に流れ下っている。②図から小田川の高梁川との合流部分は、完成堤防で川幅が狭くなっており、④図の浸水範囲から大雨で水量が増した高梁川に、同様に水量が増した小田川の水が流れ込むことができず、小田川やその支流で氾濫したと考えられる。(洪水の主因は、本流の高梁川が増水し、流れ込みを阻まれた小田川、さらに小田川支流の水が行き場を失ったための「バックウォーター現象」だったとされている。)
170	地図で考える防災		小田川の流路を変更して、C地点で高梁川と合流しないようにした。また、小田川沿いに防災公園が建設された。
170	地図で考える防災	 探究	ハザードマップは、「ハザードマップポータルサイト」から、国土地理院の「重ねるハザードマップ」、国土交通省の「わがまちハザードマップ」にアクセスでき、全国の状況を確認することができる。また、防災に関連する資料は、本書のQRコンテンツの防災ページからも確認できる。 <a href="https://ict.teikokushoin.co.jp/d-text_08hs/map/hazard">https://ict.teikokushoin.co.jp/d-text_08hs/map/hazard</a> (上記のURLをクリックすると、本書のQRコンテンツの防災ページに直接アクセスできる。)

地図帳のページ	ページタイトル	問いの番号	解答(解説)
171	日本の人口・都市・居住	<input checked="" type="checkbox"/> 74	日本の総人口は、①図から2010年代以降減少がはっきりみられるようになってきた。③図から、人口増加率がプラスである市町村は東京圏などの一部で、多くがマイナスであると読み取れる。その理由は、⑥・⑦図のように少子化が進む一方で、⑧図のように高齢化が進んでいるからである。②・③図より、過疎化が進む市町村でも、⑦図のように合計特殊出生率が高かったり、⑩図のように地域活性化に積極的に取り組んでいる例もある。
173	日本の産業・エネルギー・交通	<input checked="" type="checkbox"/> 75	日本と各地域との貿易額で、輸出の方が特に多いのは北アメリカへ、輸入の方が特に多いのは西アジアからとオセアニアからと読み取れる。その理由は、輸出はアメリカ合衆国向けの工業製品が多く、輸入は西アジアの産油国からの原油やオーストラリアからの鉱産資源が多いためと考えられる。
174	日本の産業・エネルギー・交通		SDGsの目標7にあるクリーンなエネルギーの普及には、④図にあるような大規模で集中的な発電方法ではなく、⑤図にあるような小規模で分散的な発電方法が適している。住宅用太陽光発電をはじめ、⑤④図にある再生可能エネルギーを利用して、その場所で得られる再生可能エネルギーを組み合わせたエネルギーの地産地消を目指す取り組みが必要である。(この方法のほうが、大規模発電などの危険性も低い。)
175	図法	<input checked="" type="checkbox"/> 76	地図投影法の説明のため、解答なし。
203	世界の観光・通信	<input checked="" type="checkbox"/> 77	①図から、GNIに占める国際観光収入の割合が高い国は、スペインやギリシャなどの地中海沿岸、タイやマレーシアなどの東南アジアにあることが読み取れる。スペインやタイでは、国際観光収入の方が支出よりも多く、その差は大きい。一方、国際観光支出が多い国で、収入との差が大きいのは中国である。
203	世界の観光・通信	<input checked="" type="checkbox"/> 78	③図から日本では、日本人海外旅行者数は1990年代後半から伸びが鈍くなっているが、訪日外国人旅行者数は2010年代になって急速に伸びてきたことが読み取れる。国境を越えた移動は、新型コロナウイルス感染症の流行による移動制限を終えて、復活の傾向がみられる。④図から、訪日者の国・地域別内訳は、中国や韓国など東アジアからの割合が高いことがわかる。②図から、日本での訪問先は、東京圏や大阪圏への割合が高いが、北海道も高くなっている。